<table>
<tr><td>授業科目名：
発達障害概論</td><td>教員の免許状取得のための必修科目</td><td>単位数：
２単位</td><td>担当教員名：西永　堅
担当形態：単独</td></tr>
<tr><td>実務内容
（実務家教員の場合）</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">特別支援教育に関する科目</td></tr>
<tr><td>各科目に含めることが必要な事項</td><td colspan="3">・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目</td></tr>
<tr><td colspan="4">「学位授与の方針」との関係
本科目は、特別支援教育に関する科目であるが、障害のあるなしにかかわらず、一人ひとりの発達は同じではないことを前提としている。他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の 3 つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけるための科目である。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の到達目標及びテーマ
（１）発達障害研究、ＬＤ研究の流れ、定義とＬＤの状態像及び近接領域（ＡＤＨＤ、自閉スペクトラム症、知的障害等）について理解する。
（２）発達障害支援のための教育システムについて理解する。
（３）子どもの認知発達とその支援について理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要
発達障害とは、低年齢期に指摘される認知発達の遅れのことである。そのうち、ＬＤとは、全般的な知的発達の遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなど部分的な知的発達の遅れがあることを指す。ＬＤ、ＡＤＨＤ、自閉スペクトラム症などの概念を理解しながら、特別なニーズ教育であるインクルーシブ教育について学んでいく。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画
第１回：ＬＤの理解：学習障害の定義の整理
第２回：ＬＤの理解： 学習面（読む、書く、計算する）について
第３回：ＬＤの理解： 行動面・社会性の特徴
第４回：ＡＤＨＤの理解： 多動・衝動性・不注意について
第５回：自閉スペクトラム症の理解：社会的コミュニケーション・常同行動について
第６回：知的障害の理解：知能指数・知能検査について
第７回：その他の発達障害（てんかん、行為障害等について）
第８回：教育支援システム：インクルーシブ教育について
第９回：教育支援システム：個別の指導計画・個別の支援計画・学習指導案
第１０回：教育支援システム：特別支援教育コーディネーターについて
第１１回：教育支援システム：チームアプローチと連携について
第１２回：子どもの発達：発達心理学概論
第１３回：子どもの発達：認知発達について
第１４回：子どもの発達：言語発達及びその他の発達について</td></tr>
</table>

.

第１５回：子どもの発達：社会性の発達について 定期試験
スクーリングでの学修内容 　スクーリングでは、テキスト学習だけではイメージしにくい実際例を、映像教材を用いるなどして理解を進める。また、理解の促進のため、積極的にインタラクティブな講義を行っている。 （第１回から第１５回全ての内容を横断的に含む。）
教科書 （１）西永　堅（２０１７）『基本から理解したい人のための　子どもの発達障害と支援のしかたがわかる本』日本実業出版社 （２）文部科学省（２０１８）『特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領　平成 29 年 4 月告示』海文堂出版　文部科学省 HP で参照しておくこと
参考文献 （１）山口 薫・西永 堅 編著（２０１０）『学習障害・学習困難の判定と支援教育』文教資料協会 （２）山口 薫・金子 健（２００４）『特別支援教育の展望』日本文化科学社 （３）無藤 隆・大坪 治彦・岡本 祐子(２００９)『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房 （４）秦野　悦子（２００１）『ことばの発達入門 （入門コース・ことばの発達と障害)』大修館書店 （５）日本ポーテージ協会 監修清水 直治・吉川 真知子（２０１５）『発達が気になる子どものためのポーテージプログラム入門: 0 歳から家庭でできる発達支援』合同出版
学生に対する評価 レポート評価（２５％）スクーリング（２５%)、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。